

■ 利用できるシステム
CX400/270システム (ホスト名 : cx. cc. nagoya-u. ac. jp)

■ 利用できるバージョン
STAR-CCM+ V13.06.011-R8

マニュアルは、ログインノード (cx. cc. nagoya-u. ac. jp) にログインして頂き、
/center/local/manual/starccm
にpdfがあります。(V8.04です)

また、hpc-portal (<https://portal.cc.nagoya-u.ac.jp/>) のファイル操作からダウンロードもできます。

■ 起動方法
必要なもの :
Windows で動作するX端末ソフト (ASTEC-Xなど)

手順 :
X端末ソフトを使用し、ログインノード (cx. cc. nagoya-u. ac. jp) にログイン。

起動コマンド :
starccm

・LinuxマシンのX端末機能を使用する場合
起動方法 :

クライアント (Linuxマシン) にログイン
\$ xhost +cx. cc. nagoya-u. ac. jp

DISPLAY変数の設定を、ssh接続時にssh -Xとしてcx. cc. nagoya-u. ac. jpにログイン。

```
$ ulimit -S -v unlimited  
$ ulimit -S -s unlimited  
$ starccm+ -mesa
```

■STAR-CCM+のバッチジョブの計算依頼方法は次のとおりです。
CX400/270システムにログインします。そして、入力データが存在するディレクトリに移動し、
starccmsolコマンドを
使ってCX400/270システムにバッチジョブで計算依頼します。
ライセンスに限りがありますので、複数のジョブを計算依頼する場合は、CPU数は「8」をご利用ください。

【コマンドの形式】

starccmsol [入力ファイル名] [CPU数] [ジョブキュー] [CPUリミット]

【入力パラメータの説明】

入力ファイル名 : 入力データのケース名を指定します。

case1.sim の場合、case1 とします。

CPU数 : 計算に使用するCPUコア数(1~16)を指定します。

通常(省略)時は、8

ジョブキュー : 計算依頼するリソースグループ名を指定します。

通常(省略)時は、cx2-single

リソースグループ名(ジョブクラス)の詳細は次のURLを参照ください。

http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/sc/resource_limits.html

CPUリミット : 計算依頼したジョブの実行制限を、経過時間数で指定します(単位:時間)。

省略時は、12時間

コマンド例は、次のとおりです。
starccmsol case1 8 cx2-single 12

【ヒント】

starccmsollog コマンド（コマンドの形式はstarccmsolと同じです）でジョブを投入すると、log.txt に実行時のログが出力されます。問題解決に役立ちます。